

ACG031-P07

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

東シベリア地域の湖沼など水体の長期的変化

Variation of distribution of surface water body in Eastern Siberia

大畑 哲夫^{1*}, 矢吹 裕伯¹, 紺屋 恵子¹

Tetsuo Ohata^{1*}, Hironori Yabuki¹, Keiko Konya¹

¹海洋研究開発機構・地球環境変動領域

¹RIGC/JAMSTEC

永久凍土地帯では、湖沼などの水体はよく見られる現象であるが、それらは陸域水循環の一部を構成する。これは、水循環における貯留を構成している一要素である。それらは、気候変化とともに、また地価状態の変化に伴い変化を繰り返す。幾つかの論文は、凍土の変化に関係した湖沼の分布の変化を議論している。このように、湖沼等の水体は、水循環の一部として、また陸域環境の変化を示す一現象として重要性を持つことが考えられる。

今回の解析では、東シベリア地域を対象とし、1975年から2008年までの期間のLANDSAT画像の処理を行い、水体（湖沼・氾濫原）の分布の変化を導出した。それに加え、この地域の気候データを解析し、それを変動解析に用いた。詳細な解析をレナ流域中央部と、東経125度から165度にかけての北極海沿岸部に関して行った。

水体の分布・規模とその変化に関して実態調べたところ、場所によっては一見奇妙な変化、同期していない変化などが見られた。湖水位や気象データをあわせて用いて変化を説明する。

キーワード:東シベリア,湖沼,陸域環境変動,温暖化,降水

Keywords: Eastern Siberia, lakes, Terrestrial Change, Global warming, Precipitation